
2013 年度業績目録

2014 年 3 月 31 日



熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻

教授システム学専攻同窓会

巻頭言：同窓生の活躍に感謝します

GSIS 同窓会並びに同窓生諸氏の活躍に感謝の意を表します。例えば最近、こんなことがありました（順不同）。たぶん大事な情報が漏れてます（あらかじめごめんなさい）。

- GSIS 博士前期課程に新しい科目「医療教育における e ラーニング」が開設され、都竹茂樹教授（3 期生）とともに非常勤講師として森田晃子さん（3 期生）に担当してもらっています。
- TDM コンサルティング（株）（森田晃子社長（3 期生））と GSIS とが共同研究「インストラクショナルデザイン学習教材のシナリオの共同開発」を開始しました。
- サンライトヒューマン TDMC（株）（森田晃子社長（3 期生））が e ラーニングコンソシアム認定資格取得のための「ラーニングデザイナー講座」をスタートし、根本淳子助教とともに高橋暁子さん（2 期生）がその講師を務めています。
- 早川勝夫さん（3 期生）が代表理事、小野達也さん（3 期生）が事務局長として、一般財団法人教育学習評価機構（JEIEL）を設立しました。
- 村嶋亮一さん（1 期生）が新会社「株式会社ヴィネット」を設立し、代表取締役社長に就任しました。
- 紙谷あゆ美さん（5 期生）が日本医療教授システム学会第 7 回総会のプログラム委員長に就任しました。
- 竹岡篤永さん（5 期生）が高知大学総合教育センター特任助教としての職を得ました。引き続き「統合型カリキュラム設計演習 II」の非常勤講師も務めています。
- 高橋暁子さん（2 期生）が徳島大学教育改革推進センター特任准教授としての職を得ました。新たに「統合型カリキュラム設計演習 I」の非常勤講師も務めます。
- 宮原俊之さん（1 期生）が、引き続き「教育ビジネス経営論」の非常勤講師を務めています。
- 宇野令一郎さん（1 期生）が、新たに「遠隔教育実践論」の非常勤講師を務めます。
- 石田百合子さん（5 期生）が、「オリエンテーション科目」の TA を務めています。
- 八木秀文さん（3 期生）が北海道大学高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター特定専門職員としての職を得ました。
- 平岡齊士さん（7 期生）が文科省プロジェクト担当の特任准教授として GSIS の仲間に加わりました。
- 都竹茂樹教授（3 期生）が GSIS 専攻長（博士後期課程担当）に就任しました。

「業績目録」に満載の大活躍・大躍進もすごいですね。目録は出ていないたくさんの活躍がまだまだあると思います（私のが載ってない、上記でも触れられていない、とお心当たりの方、重ねてお詫びします!）。GSIS 修了生としてたくさん活躍してくれてありがとう。同窓会会員諸氏のますますのご活躍と、良い知らせを耳にすることを楽しみにしております。

おりしも GSIS は、設立9年目で初めての「定員割れ」を博士前期課程で経験中です。これがV字回復をして、GSIS の今後にダメージを残さない過去の特異現象化することを願っています。入学志願者増にも引き続きご協力くださいませ。

感謝の意を込めて

2014. 4. 12.

GSIS 専攻長（博士前期課程担当）

鈴木克明

博士後期課程専攻長就任のご挨拶

同窓会の皆さま。3期生の都竹茂樹です。

2011年にGSIS（博士前期課程）を修了後、2012年からはGSISの専任教員、そして今年度からは博士後期課程の専攻長を拝命いたしました。ついこの間まで学生だった私に専攻長がつとまるのか不安も多々ありますが、コアコンピテンシー12番の「教授システム学専攻の同窓生として、専門性を生かして専攻の発展・向上に寄与できる」を肝に銘じて取り組んで参りますので、よろしくお祈りいたします。

特に今年度は博士前期課程が定員割れし、教授システム学専攻にとって正念場ともいえるべき状況を迎えています。この状況を打破するには、

- ①教員、アソシエイトが学会発表や論文を通じてGSISで学ぶことのメリットをアピール
- ②IDを体験する機会の提供、GSISで学ぶ様子の紹介
- ③そして何より優秀な人材（修士、博士）を社会に輩出するなど、やるべきことは多々あると感じています。

実際、これまでも同窓会の協力をいただきながら、東京、名古屋、大阪でセミナーを開催してきましたが、受講生の中にはGSISに入学される方もみえるなど一定の成果をあげています。2014年度も以下の日程で開催いたしますので、受講者の紹介や事例提供などでご協力いただければ幸いに存じます。またこれ以外の地区でも実施可能！！という情報も大歓迎です。よろしくお祈りいたします。

インストラクショナルデザイン 入門編： 11/8（名古屋）、11/9（大阪）、11/16（東京）
インストラクショナルデザイン 応用編： 1/25（東京）

また「仕事をしながら勉強できるか不安」という声に対して、2014年2月にGSISで学ぶ学生さんの様子を地元テレビ局で取材・紹介していただきました。現在もWeb上で番組を見ることができますので (<http://goo.gl/YHN6x8>)、GSISに興味をお持ちの方にご紹介いただければ幸いです。

以上、2011年7月に熊本大学へ着任してからの取り組みを紹介させていただきましたが、まだまだ十分とは言えません。むしろ、もっと気合いを入れて！？やっていく必要があると感じています。しかし、残念ながらGSISの教員だけではマンパワー的に限界があります。今後は、より多くの優秀な人材（修士、博士）の育成に取り組んでいくことは勿論のこと、同窓会の皆さまと密なタッグを組んで「教授システム学専攻の同窓生として、専門性を生かして専攻の発展・向上に寄与」していきたいと思っておりますので、よろしくお祈りいたします。

GSIS 専攻長（博士後期課程担当）

都竹 茂樹

業績集発刊にあたって

この度、GSIS 同窓会として業績集を発刊することになりました。

これまで同窓会では、同窓生による卒後研究等の発表の場として、入科式イベントの開催に合わせてポスターセッションを開催し、それらをまとめて資料として発刊してきました。この作業を基にして、同窓会での研究活動だけではなく、GSIS としての研究業績と一緒にまとめて、専攻の業績集として発刊することになりました。

GSIS 同窓生の活躍の場も増え、活動範囲が広がり、その頻度も増えてきています。しかし、これまでは、それらを発表する機会は入科式の開催されるポスターセッションに参加することだけでした。ポスターセッションに参加できないと、折角活動したのに同窓会活動として、ポスターセッション資料に掲載してもらえないという状況でありました。同窓生の活動もポスターセッションだけでは拾いきれない状況になりつつあります。また、これまで GSIS としての研究成果は資料としてストックされてきておりませんでした。GSIS の研究業績を毎年まとめて資料としてストックすることは、年を追うごとにその価値が高まるであろうということで、本年より業績集としてストックしていくことになりました。そこで、同窓会では、GSIS 研究成果と同窓生の研究や活動成果を一つにして同窓会活動の一環として業績集を発刊する運びになりました。

鈴木専攻長の巻頭言にもありますように、今後の同窓会活動として、GSIS の PR 活動に力を入れていかなければならないと感じております。個々の同窓生はそれぞれ頑張っておられますが、まだまだ、同窓会として組織だった活動ができていないのが現状です。同窓会組織として GSIS の PR 活動をしていくうえでも今回発刊する業績集を活用いただき、GSIS やその卒業生がどんな研究や活動をしているのかを理解いただき、多くの方々が GSIS で学べとなるように活動できればと思います。本業績集をご活用いただければ幸いです。

最後に、益々卒業生が活躍し業績集作成段階で編集作業に追われるようなボリュームになることを願っております。

GSIS 同窓会会長
早川 勝夫

目次

2013年度の成果の概要.....	1
I. 教員による業績.....	3
I-A. 学術論文 [8]件.....	3
I-B. 著書・訳書 [5]件.....	4
I-C. 国際会議 [19]件.....	4
I-D. 国内学会 [36]件.....	7
I-E. 招待講演 [31]件.....	10
I-F. 外部資金 [14]件.....	13
I-G. その他 [20]件.....	15
II. アソシエート（本専攻の学生および同窓生）による業績.....	18
II-A. 学術論文 [7]件.....	18
II-B. 博士論文 [1]件.....	18
II-C. 国際会議 [6]件.....	19
II-D. 国内学会 [61]件.....	19
II-E. 招待講演[30]件.....	26
II-F. 外部資金[1]件.....	29
II-G. その他 [17]件.....	29

2013 年度の成果の概要

2013 年度の成果は、15 件の学术论文をはじめとする表 1 および図 1 の成果指標に表れた。2013 年度の特徴は、アソシエートの学术论文 7 件のうち、6 件の第一著者が同窓生であった点である（博士前期課程修了後、博士後期課程へ進学した同窓生を含む）。修了後も研究を継続し、学术论文という一つの成果に結実したことがうかがえる。また、教員とアソシエート、アソシエート同士による共同研究がますます増加しており、教授システム学の裾野の広がりが感じられる。

表 1 2013 年度の成果

		教員	アソシエート	計
学术论文		8	7 (6)	15
博士論文		-	1 (1)	1
著書・訳書		5	0	5
国際会議		19	6 (4)	25
国内学会		36	61 (39)	97
招待講演	研究	13	0	13
	教育	18	30 (30)	43
外部資金		14	1 (1)	15
その他		20	17 (17)	42
計		133	123 (98)	256

注) カッコ内はアソシエートの内、同窓生の成果。なお、博士後期課程に進学した同窓生、および非常勤教員となった同窓生は、すべて「同窓生」とした。また、専任教員となった同窓生は「教員」とした。

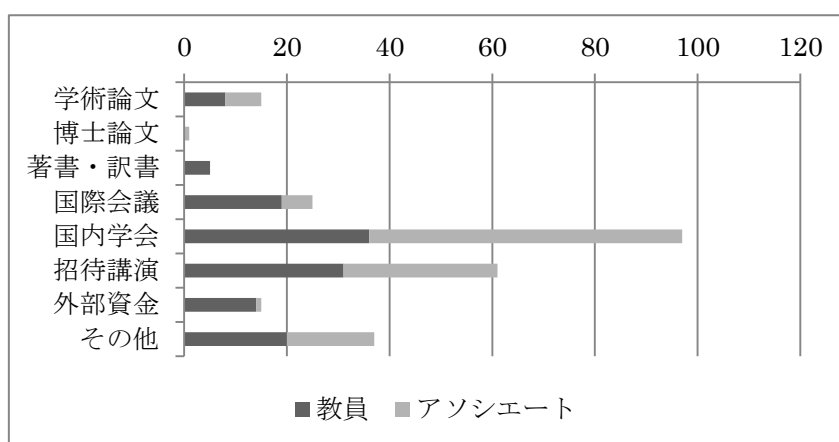


図 1 2013 年度の成果 (グラフ)

教授システム学専攻が設立された 2006 年から 2013 年までの研究業績を表 2 および図 2 に示す。熊本大学で国際会議や国内学会の大会が開かれた 2007 年度を除いて、研究業績が毎年着実に増加していることが分かる。

以上から、教授システム学専攻の博士前期（修士）課程・博士後期課程における人材育成を通じて、教授システム学に関する研究が一層高度化されたとともに、イノベーションを先導する全国的な拠点としての地位の確立に繋がりがつつあると言えよう。

表 2 2006 年度～2013 年度の研究業績

年度	学術論文		国際会議		国内学会	
	教員	アソシエート	教員	アソシエート	教員	アソシエート
2006	7	0	2	0	10	2
2007	6	1	39	2	43	10
2008	5	2	3	2	13	13
2009	10	0	3	7	19	29
2010	7	4	10	6	19	31
2011	6	6	11	3	25	34
2012	16	0	10	3	28	36
2013	8	7	19	6	36	61

注) 2006 年度～2011 年度までの数値は、鈴木克明 (2013.2.10) 拠点形成プロジェクト報告会 全体報告スライドから引用した。2012 年度の数値は、教授システム学専攻「研究活動」ページ (http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/research_info/) を元に再集計した。

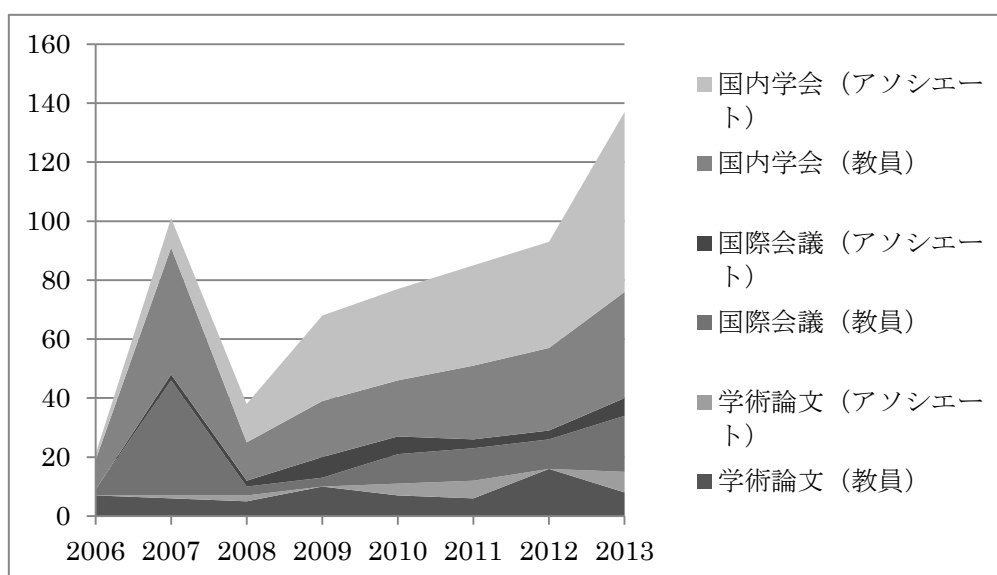


図 2 2006 年度～2013 年度の研究業績 (グラフ)

(文責：同窓会事務局長 高橋暁子)

業績目録

「専任教員」は二重実線の下線、「学生」は実線の下線、「同窓生」は破線の下線である。
なお、博士後期課程に進学した同窓生、および非常勤教員となった同窓生は、すべて「同窓生」とした。また、専任教員となった同窓生は「教員」とした。

I.教員による業績

I-A.学術論文 [8]件

- I-A-1. 根本淳子・竹岡篤永・高橋暁子・柴田喜幸・鈴木克明 (2014 印刷中)「ストーリー中心型カリキュラムによるリフレクション活動の推進と強化 (特集論文)」日本教育メディア研究 Vol.20, No2, 15-25
- I-A-2. 都竹茂樹、佐藤真治 (2014 印刷中)「自体重負荷の低速度筋力トレーニングが高齢者の形態、糖・脂質代謝に及ぼす影響」 熊本大学政策研究
- I-A-3. 鈴木克明 (2013) eラーニング活用による教授法の再構築に向けて (論説) 工学教育、61 (3) , 14-18
- I-A-4. 永井孝幸, 松葉龍一, 久保田真一郎, 喜多敏博, 北村士朗, 右田雅裕, 武藏泰雄, 杉谷賢一, 戸田真志, 中野裕司, Android タブレットを用いた FCF キャンパスカード対応 IC カードリーダーのオープンな実装と LMS 連携による出席管理の実現, 学術情報処理研究, No.17, pp.67-76 (2013-09-09).
- I-A-5. 都竹茂樹 (2014)「スロー筋トレの効果」(論説) Practice of Pain Management, 5(1), 22-7
- I-A-6. Koichiro Enomoto, Masashi Toda, and Yasuhiro Kuwahara, "Extraction Method of Scallop Area from Sand Seabed Images", IEICE Transactions on Information and Systems, Vol.97, No.1, pp.130-139, 2014.01.
- I-A-7. 萩沢武志, 戸田真志, 佐鯉輝育, 松村一弘, 福田将仁, “生シイタケを撮影した画像からの傘の開き判定手法”, 精密工学会論文誌, Vol.79, No.11, pp.1038-1044, 2013.
- I-A-8. 朝倉僚, 宮坂淳介, 近藤一晃, 中村裕一, 秋田純一, 戸田真志, 櫻沢繁, "筋電位計測と画像による姿勢計測を用いたリハビリテーション支援システムの設計", 電子情報通信学会論文誌, Vol.J97-D, No.1, pp.50-61, 2014.

I-B.著書・訳書 [5]件

- I-B-1. 根本淳子・鈴木克明 (2014) (編著) 竹岡篤永・高橋暁子・柴田喜幸 (著) 『ストーリー中心型カリキュラムの設計理論と授業実践ーオンライン大学院の挑戦とその舞台裏ー』 東信堂
- I-B-2. R.A.リーサー・J.V.デンプシー (編著)、鈴木克明・合田美子 (監訳) 半田 純子・根本淳子・沖潮 満里子・椿本 弥生・寺田 佳子・渡邊 雄貴・山田 政寛 (訳) (2013) 「インスタラクショナルデザインとテクノロジー: 教える技術の動向と課題」北大路書房
- I-B-3. Beaudoin, M., Kurtz, G, Jung, I., Suzuki, K., & Grabowski, B. L. (2013). Online Learner Competencies: Knowledge, Skills, and Attitudes for Successful Learning in Online Settings. Information Age Publishing.
- I-B-4. 喜多敏博 (第3章第4節 執筆担当)(2013.4)熊本大学におけるeラーニングを担う「eラーニング推進機構」(第3章第4節), ICTで実現する大学教育改革ーフランス・カナダ・日本の事例からー, 岩手大学大学教育総合センター編 東北大学出版会
- I-B-5. 都竹茂樹 (2013) (単著) 『高齢者の筋力トレーニングー安全に楽しく行うための指導者向け実践ガイドー』 講談社

I-C.国際会議 [19]件

- I-C-1. Matsuba, R., Taira, H., Fukuda, M., Kubota, S-I., A Design of developmental education via on-line learning- For increasing students' technical competence in science and engineering fields -.
- I-C-2. Tsubakimoto, M., Watanabe, Y., Yokoyama, M., Otsuka, H., Nemoto, J., Suzuki, K., & Mima, N. (2014). Establishing a Learning Support Organization Centered on College Students and Practical Use of a Teaching and Learning e-Portfolio for Tutors. A paper presented at the 12th Annual Hawaii International Conference on Education (HICE 2014), Jan. 5-8, 2014

- I-C-3. Masumi Hori, Seishi Ono, Shinzo Kobayashi, Kazutsuna Yamaji, Toshihiro Kita, "Peer-to-peer Learning on Large Scale Online Courses: Focusing on Lurkers", http://cgpublisher.com/conferences/266/proposals/84/index_html Sixth International Conference on e-Learning and Innovative Pedagogies and the e-Learning and Innovative Pedagogies. http://ubi-learn.com/_uploads/FULLPROGRAM.pdf
- I-C-4. Suzuki, K. (2013). University faculty development in Japanese context. An invited keynote address at the International Conference on Faculty/Educational Development 2013, October 30-November 1, 2013, Qingdao, China.
- I-C-5. Masumi Hori, Seishi Ono, Shinzo Kobayashi, Kazutsuna Yamaji, Toshihiro Kita, "Prototyping a new open education platform offering e-book based courses linked to Moodle with federated authentication", <http://research.moodle.net/mod/data/view.php?d=7&mode=single&page=1> In Proceedings of the 2nd Moodle Research Conference (MRC2013), Retalis, S. & de Raadt, M. (Eds), 115-120.
- I-C-6. Suzuki, K., Nemoto, J., Takeoka, A., Takahashi, A., & Shibata, Y. (2013.8.10). Sequencing Collaborative Activities in an Online Graduate Program. A paper presented at ICoME 2013 (International Conference on Media in Education), Nihon Fukushi University, Japan.
- I-C-7. Nemoto, J., Takeoka, A., Takahashi, A., Shibata, Y., & Suzuki, K. (2013.8.9). Design of Learning Environment for a Story-centered Curriculum. A paper presented at ICoME 2013 (International Conference on Media in Education), Nihon Fukushi University, Japan.
- I-C-8. Matsuba, R., Kubota, S., Nemoto, J., Watanabe, A., Homma, R(2013)Implementation of Evidence Based FYE Courses in a University of Japan, A paper presented at The Association for Authentic, Experiential and Evidence-Based Learning Annual ePortfolio Conference, Boston, USA.
- I-C-9. Kubota, S-I., Mataba, R., Practice Case about Information Literacy Class with ePortfolio System Mahara: A Case Study of Kumamoto University! ePIC2013 pp117-125.

- I-C-10. Hiroshi, R., Homma, R., Matsuba, R., Kubota, S-I., Nagai, T., Kita, T., Usagawa, T. THE REQUIRED FUNCTIONS AND IMPLEMENTATION PRINCIPLES OF THE UNIVERSITY-WIDE EPORTFOLIO SYSTEM LINKED TO THE CURRICULUM MAP, ePIC2013 pp158-159.
- I-C-11. Matsuba, R., Nemoto, J., Watanabe, A., Kubota, S., Homma, R. (2013) A practice of an evidence based first year experience in a Japanese university, A paper presented at 5th International Conference on Education and New Learning Technologies, Barcelona, Spain.
- I-C-12. KITA Toshihiro, Naotoshi Osaka, "Providing a feeling of other remote learners' presence in an online learning environment via realtime sonification of Moodle access log", A demonstration presented at NIME2013 Daejeon, Korea Republic.
- I-C-13. Sato S, Tsuzuku S., Ohtsuki S, Tanaka S, Makita S (2013) Association between Physical Activity and Community- and Individual-level Social Capital: A Population-Based Study in Japan, Euro PRevent 2013, Italy
- I-C-14. Masataka Minami, Masahiro Migita, Masashi Toda, "Improvement of Panoramic Image on underwater", Proc. of International Student Conference on Advanced Science and Technology(ICAST2013), pp.211-212, 2013.
- I-C-15. Yuma Arakawa, Takeshi Nagasaki, Masashi Toda, Keiji Hirata, Hitoshi Matsubara, "Implementation of Normally-off Function for TOPPERS/ASP Kernel", 2013 IEEE 2nd Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2013), pp.85-89, 2013.
- I-C-16. Koichiro Enomoto, Masashi Toda, and Yasuhiro Kuwahara, "Detection Method of Asteroid in Sand field from Seabed Video", International Conf. on Quality Control by Artificial Vision, pp.298-301, May. 2013.
- I-C-17. Masashi Nonami, Masashi Toda, Takeshi Nagasaki, So Otsuka, "Application for Textured Objects at Rangefinding System with Single In-Vehicle Rear Camera Using Hough Transform", 11th International Conference on Quality Control by Atificial Vision(QCAV2013), pp.228-232, 2013.
- I-C-18. Koichiro Enomoto, Masashi Toda, and Yasuhiro Kuwahara, "Detection Method of Scallop and Asteroid from Seabed Video", Proc. of 9th IAPR Conference on Machine Vision Applications(MVA2013), pp.435-438, May. 2013.

- I-C-19. Keigo Owada, Masashi Toda, Shigeru Sakurazawa, Junichi Akita, Kazuaki Kondo, Yuichi Nakamura, "Observation of movement state using surface EMG signal", 2nd Global Conference on Consumer Electronics(GCCE2013), pp.412-416, 2013.10.

I-D.国内学会 [36]件

- I-D-1. 久保田 真一郎・松葉 龍一・中野裕司 (2014.3.15) 毎週のオンラインテスト学習履歴データからみる学習者特性と期末試験結果との関係性.教育システム情報学会 2013 年度特集研究会 (名古屋学院大学) 研究報告 28 (7) , 143-148
- I-D-2. 根本淳子・井ノ上憲司・市川尚・高橋暁子・鈴木克明 (2014.3.1) レイヤーモデルを用いた学習設計支援方法についての検討. 日本教育工学会研究報告集 (JSET14-1), 285-288
- I-D-3. 根本淳子・和田 卓人・竹岡篤永・高橋暁子・久保田真一郎・鈴木克明 (2014.1.11) 「学びのスケッチ」による振り返りの改善. 教育システム情報学会 2013 年度第 5 回研究会 (高知工科大学) 研究報告 28 (5) , 15-16
- I-D-4. 中野裕司, 永井孝幸, 松葉龍一, 喜多敏博, 杉谷賢一, 宇佐川毅, 共有化を狙った Web アプリケーション仕様の提案とサンプルの開発の試み, 大学 ICT 推進協議会 2013 年次大会論文集, 幕張, 2013-12-19, pp.319-322 (2013-12-19).
- I-D-5. 久保田真一郎, 松葉龍一, 田村規雄, 八木玲子, 西村岳史, 中野淳, 中野裕司, オンライン情報処理科目における受講者アンケート分析結果, 大学 ICT 推進協議会 2013 年次大会論文集, 幕張, 2013-12-18, pp.43-48 (2013-12-18).
- I-D-6. 岩永有平, 中野裕司, 永井孝幸, スケジュール情報と位置情報の制約を用いた行動管理用 Android アプリケーションの試作, 情報処理学会研究報告, コンピュータと教育研究会報告, 沖縄, 2013-12-07, Vol.2013, No.16, pp.1-8 (2013-12-07).
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009634510/>
- I-D-7. 永井孝幸, 杉谷賢一, 河津秀利, 中野裕司, 学認対応認証基盤とユーザ ID 体系移行用 CAS ゲートウェイの構築, 情報処理学会研究報告, コンピュータと教育研究会報告, 沖縄, 2013-12-07, Vol.2013, No.20, pp.1-10 (2013-12-07).
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009634514/>

- I-D-8. 久保田 真一郎・松葉 龍一・中野裕司 (2013.11.9) 毎週のオンラインテスト学習履歴データによる学習者特性の検討. 教育システム情報学会 2013 年度第 4 回研究会 (北陸先端科学技術大学院大学) 研究報告 28 (4) , 27-30
- I-D-9. 鈴木克明・根本淳子・竹岡篤永・高橋暁子・柴田喜幸 (2013.10.12-13) 「オンライン大学院におけるグループ課題の系列化」日本教育メディア学会第 20 回年次大会 (和歌山大学) 発表論文集, 51-52
- I-D-10. 根本淳子・竹岡篤永・高橋暁子・柴田喜幸・鈴木克明 (2013.9.22) ストーリー中心型カリキュラムの計量テキスト分析. 日本教育工学会第 29 回全国大会 (秋田大学) 発表論文集, 771-772
- I-D-11. 根本淳子・竹岡篤永・高橋暁子・柴田喜幸・鈴木克明 (2013.9.2) ストーリー中心型カリキュラムの改善とその効果. 教育システム情報学会第 38 回全国大会(金沢大学)発表論文 集, 117-118
- I-D-12. 美馬 のゆり・鈴木克明・椿本 弥生・渡辺 雄貴・根本淳子・大塚 裕子 (2013.9.23) ピアチュータリングを取り入れた高等教育における統合型学習支援システムの開発. 日本教育工学会第 29 回全国大会 (秋田大学) 発表論文集, 167-168
- I-D-13. 山内 祐平・池尻 良平・田中 淳・大原 美保・地引 泰人・吉川 肇子・鈴木克明・藤本徹 (2013.9.23) 学習者の状況に対応したシナリオ型防災教育教材の開発. 日本教育工学会第 29 回全国大会 (秋田大学) 発表論文集, 959-960
- I-D-14. 合田美子・山田 政寛・松田 岳士・加藤 浩・齋藤 裕・宮川 裕之 (2013.9.23) eラーニングにおける学習行動の分類. 日本教育工学会第 29 回全国大会 (秋田大学) 発表論文集, 867-868
- I-D-15. 鈴木克明・合田美子 (2013.9.22) 『インストラクショナルデザインとテクノロジーの動向と課題 (仮)』 計量テキスト分析の試み. 日本教育工学会第 29 回全国大会 (秋田大学) 発表論文集, 679-680
- I-D-16. 山田 政寛・合田美子 (2013.9.21) Facebook を授業外学習支援に利用した実践における社会的存在感の変化. 日本教育工学会第 29 回全国大会 (秋田大学) 発表論文集, 271-272
- I-D-17. 喜多敏博 ・鈴木克明 (2013.9.21) 多言語コンテンツの整備を容易にする Moodle 用アドオンの開発. 日本教育工学会第 29 回全国大会 (秋田大学) 発表論文集, 383-384

- I-D-18. 鈴木克明・根本淳子 (2013.9.3) デザイン研究を学位論文に採用するための方法論レビュー. 教育システム情報学会第 38 回全国大会(金沢大学)発表論文集, 169-170
- I-D-19. 仲林 清・森本 容介 (2013.9.3) 拡張性を有する学習支援システムアーキテクチャのグループ学習のための機能拡張検討. 教育システム情報学会第 38 回全国大会(金沢大学)発表論文集, 295-296
- I-D-20. 合田美子・新目 真紀・山根 信二・玉木 欽也 (2013.9.3) ポートフォリオを活用したブレンド型協調学習の実践. 教育システム情報学会第 38 回全国大会(金沢大学)発表論文集, 305-306
- I-D-21. 山田 政寛・合田美子 (2013.9.2) 協調学習を導入した授業における Facebook の利用:「探求の共同体」フレームワークによる学習コミュニティの評価. 教育システム情報学会第 38 回全国大会(金沢大学)発表論文集, 9-10
- I-D-22. 合田美子・山田 政寛・松河 秀哉・畑 耕治郎・安浪誠 (2013.9.2) Chatbot を活用したプレディスカッション活動の批判的思考への影響. 教育システム情報学会第 38 回全国大会(金沢大学)発表論文集, 37-38
- I-D-23. 権藤 俊彦・合田美子 (2013.9.2) 実践コミュニティの設計を支援するテンプレートの開発. 教育システム情報学会第 38 回全国大会(金沢大学)発表論文集, 115-116
- I-D-24. 久保田 真一郎 (2013.9.2) 全学情報リテラシ科目の演習型学習を支援するティーチングアシスタント研修. 教育システム情報学会第 38 回全国大会(金沢大学)発表論文集, 45-46
- I-D-25. 仲林 清 (2013.9.2) 技術イノベーションを主題とする授業実践における学習者の理解度分析. 教育システム情報学会第 38 回全国大会(金沢大学)発表論文集, 115-116
- I-D-26. 北村土朗,藤本徹,妹尾堅一郎,知財人財育成のための講師養成手法の開発と実践(2), コンピュータ利用教育学会(CIEC),2013PC Conference (全国大会) 論文集,東京大学,2013-08-04,pp217-220
- I-D-27. 仲林 清・森本 容介 (2013.5.18) 拡張性を有する学習支援システムアーキテクチャのグループ学習のための機能拡張検討. 教育システム情報学会研究報告 28 (1)
- I-D-28. 石田 岳史・佐藤 真治・中貝 宗治・都竹 茂樹・大槻 伸吾 (2013) 医・産・官・学連携による地域包括的リハビリテーション」心臓リハビリテーション 18: 13-5

- I-D-29. 南佳孝, 右田雅裕, 戸田真志, “海中映像を対象としたパノラマ画像生成方式に関する検討”, 動的画像処理実利用化ワークショップ 2014(DIA2014)講演論文集, pp.311-314, 2014.03.
- I-D-30. 渡邊真樹, 右田雅裕, 戸田真志, “手術映像記録システムのためのジェスチャを用いたカメラ操作手法の検討”, 動的画像処理実利用化ワークショップ 2014(DIA2014)講演論文集, pp.287-290, 2014.03.
- I-D-31. 榎本洗一郎, 戸田真志, 栗原康裕, "蛍光顕微鏡画像からのホタテガイ幼生検出手法の検討", 第19回画像センシングシンポジウム(SSII2013)講演論文集, 4pages in CD-ROM, 2013.06.
- I-D-32. 北尾憲一, 近藤一晃, 中村裕一, 秋田純一, 戸田真志, 櫻沢 繁, "EMS トレーニング中の筋の状態推定を目的とした誘発筋電位の計測", 電子情報通信学会技術研究報告, ME とバイオサバネティックス研究会, MBE2013-28, pp.15-20, 2013.07.
- I-D-33. 大和田敬吾, 戸田真志, 櫻沢繁, 秋田純一, 近藤一晃, 中村裕一, "表面筋電信号を用いた環境変化による筋動作変化に関する研究", 人間情報学学会ポスター発表集, pp.10-15, 2013.09.
- I-D-34. 平野貴之, 秋田純一, 櫻沢 繁, 戸田真志, 近藤一晃, 中村裕一, "筋電信号の多点計測のためのマトリクス電極配置アーキテクチャとその実装", 電子情報通信学会技術研究報告, ME とバイオサバネティックス研究会, MBE2013-119, pp.25-28, 2014.03.
- I-D-35. 北尾憲一, 近藤一晃, 中村裕一, 秋田純一, 戸田真志, 櫻沢 繁, "バンド型電極を用いた EMS 刺激による誘発筋電位の特徴解析", 電子情報通信学会技術研究報告, ME とバイオサバネティックス研究会, MBE2013-129, pp.73-78, 2014.03.
- I-D-36. 大和田敬吾, 戸田真志, 櫻沢 繁, 秋田純一, 近藤一晃, 中村裕一, "環境に依存した筋動作変化に関する筋電図的考察", 電子情報通信学会技術研究報告, ME とバイオサバネティックス研究会, MBE2013-130, pp.79-84, 2014.03.

I-E.招待講演 [31]件

<研究 [13]件>

- I-E-1. 鈴木克明 (2014.3.18) 招待小講演「インストラクショナルデザインからみた大学教育－鳥瞰図からサンドイッチモデルへー」第20回大学教育フォーラム、京都大学

- I-E-2. 鈴木克明 (2014.3.17) 講演「教育設計学 (ID)で取り組む大学授業の改善」明治薬科大学 2013 年度 FD 研修会 (後期)
- I-E-3. 鈴木克明・浅田 義和 (2014.3.8) ファシリテータ「ID 疑問解消セミナー」, 第 6 回日本医療教授システム学会総会
- I-E-4. 鈴木克明 (2014.1.24) 講演 4 「反転授業とインストラクショナル・デザインの役割について」第 22 回 SEA 新春教育フォーラム、CIC 東京
- I-E-5. 鈴木克明 (2013.10.25) ワークショップ講師「D 教育メディアとインストラクショナルデザイン」第 39 回全日本教育工学研究協議会全国大会 (仙台)
- I-E-6. 中野裕司, ICT を活用した学習支援と質保証 - 事例紹介と今後の動向 -, 情報処理学会九州支部「若手の会セミナー2013」, 阿蘇, 2013 年 9 月 13-14 日.
- I-E-7. 鈴木克明 (登壇者) (2013.9.2) 「編集担当委員が語る JSiSE 論文投稿入門—教育実践をいかに論文化するのか?—」教育システム情報学会第 38 回全国大会プレカンファレンス(金沢大学)
- I-E-8. 鈴木克明 (2013.8.24) 【招待】登壇者「インターネット型大学院における質保証の事例」セッション 1 「高等教育の先端的動向と質保証」高等教育質保証学会 第 3 回大会、京都大学
- I-E-9. 鈴木克明 (2013.8.3-4) ARCS/ISD セミナー講師、日本医療教授システム学会、ファイザー製薬本社 (新宿)
- I-E-10. 北村土朗 (登壇者) (2013.08.03) 「大学教育における対面授業・物理的学習環境の価値を再考する」コンピュータ利用教育学会(CIEC)2013PC Conference (全国大会) シンポジウム 1、(東京大学)
- I-E-11. 北村土朗 (登壇者) (2013.08.03) 「PC 講座をより良いものにするために」コンピュータ利用教育学会(CIEC)2013 九州 PC カンファレンス企画分科会(鹿児島大学)
- I-E-12. 鈴木克明 (2013.7.27) 【招待】登壇者「カリキュラムと教授システム学」 パネルディスカッションVII「カリキュラムとは何か」第 45 回日本医学教育学会大会、千葉大学
- I-E-13. 鈴木克明 「ISD/教育・研修の実践を論文にする事例研究会」ファシリテータ、日本医療教授システム学会 (2013 年 4 月 13, 5 月 4 日, 6 月 1 日, 7 月 6 日, 9 月 14 日, 10 月 19 日, 11 月 9 日, 東京慈恵会医科大学, 12 月 7 日、おもと会教育研修センター・シミュレーションラボ (OSL) ,2014 年 1 月 18 日, 2 月 8 日、東京慈恵会医科大学)

<教育 [18]件>

- I-E-14. 鈴木克明 (2014.2.27) 講演「自分で学ぶ生徒を育てる授業の設計」教育講演会、北九州予備校熊本校
- I-E-15. 鈴木克明 (2014.2.25) 講演「企業の持続的成長とこれからの人材育成のあり方を考える」四国生産性本部主催人財育成講演会、ザクラウンパレス新阪急高知
- I-E-16. 鈴木克明 (2014.2.24) 講演「企業の持続的成長とこれからの人材育成のあり方を考える」四国生産性本部主催人財育成講演会、東京第一ホテル松山
- I-E-17. 鈴木克明 (2014.2.20-21) 講師「第9回MR トレーナーズセミナー応用コース」(公財) MR 認定センター主催、オンワード研修所
- I-E-18. 鈴木克明・都竹茂樹・森田晃子・石田百合子 (2014.1.26) 熊本大学公開講座【教育デザイン・ワークショップ】東京
- I-E-19. 鈴木克明・都竹茂樹・森田晃子・石田百合子 (2013.11.10) 熊本大学公開講座【教育デザイン・ワークショップ】東京
- I-E-20. 中野裕司 (2013.10.6) 新しい web 技術の e ラーニングへの応用と今後の可能性. 熊本大学関西オフィスセミナー「教授システム学を取り巻く動向と今後の展開」大阪駅前第3ビル17階会議室
- I-E-21. 鈴木克明・都竹茂樹・太石熒・佐伯街子 (2013.10.20) 熊本大学公開講座【教育デザイン・ワークショップ】名古屋
- I-E-22. 鈴木克明 (2013.10.6) インストラクショナルデザインとテクノロジー: 教える技術の動向と課題. 熊本大学関西オフィスセミナー「教授システム学を取り巻く動向と今後の展開」大阪駅前第3ビル17階会議室
- I-E-23. 中野裕司, ラーニング大学院のカリキュラム設計と学習環境及びその e ポートフォリオ ~熊本大学教授システム学専攻の事例から~, 長崎大学 教育革新シンポジウム「主体的な学びを促進する支援環境について考える」, 長崎大学, 2013年9月12日.<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/info/event/event303.html>
- I-E-24. 中野裕司, e ポートフォリオとは? その全体像について, サイエнтиフィック・システム研究会 (SS研) 教育環境分科会 2013年度第1回会合, 学生主体の学びとその支援 - e ポートフォリオと Learning Analytics -, 汐留シティセンター, 2013年9月11日.
<https://www.sskn.gr.jp/MAINSITE/event/2013/20130911-edu-1/index.html>

- I-E-25. 鈴木克明 (2013.9.3-9.30) eLP 資格制度 資格取得コース『教授法設計』 eラーニングコース講師
- I-E-26. 鈴木克明 (2013.8.28) 招待講演「インストラクショナルデザインとしての授業設計：よりよい授業デザイナーになるために」第20回佐賀県立総合看護学院教員研修会、佐賀県立総合看護学院
- I-E-27. 鈴木克明 (2013.8.26) 獨協医科大学看護学部 FD 研修会講師、日光市
- I-E-28. 鈴木克明 (2013.8.23) 【招待】講演「インストラクショナルデザイン(ID)と大学教育の再設計」京都大学学術情報メディアセンターセミナー
- I-E-29. 鈴木 克明・仲道雅輝 (2013.8.16-17) 講師・ファシリテータ「授業のあり方を見直そう-効果的な看護教育の展開に向けて/学習意欲を高める授業設計とは」愛媛県看護教員継続教育研修会、にぎたつ会館 (松山市)
- I-E-30. 鈴木克明 (2013.8.7) 基調講演「教育の質を保証するインストラクショナルデザイン」文部科学省大学改革推進事業「看護師の人材養成システムの確立」平成25年度フォーラム「効果的・効率的な教育プログラムをシステムティックに開発しよう」、名古屋大学医学部附属病院
- I-E-31. 鈴木克明・都竹茂樹・森田晃子・片野俊行 (2013.7.21) 熊本大学公開講座【教育デザイン・ワークショップ】大阪

I-F.外部資金 [14]件

- I-F-1. 鈴木克明 (研究分担者) 平成25年度 厚生労働科学研究費補助金
地域医療基盤開発推進研究事業「医療の質・安全の向上をめざしたシミュレーション教育・研修システムの開発および遠隔教育への応用についての研究」研究班
(研究代表者 井田雅祥@虎の門病院シミュレーション・ラボセンター)
- I-F-2. 鈴木克明 (研究分担者)・根本淳子 (研究分担者) 平成24-26年度 学術振興会科学研究費補助金
基盤研究(B) 課題番号: 24300287 「ピアチュータリングを取り入れた高等教育における統合型学習支援システムの開発」 (研究代表者 美馬のゆり@はこだて未来大学)

- I-F-3. 中野裕司 (研究分担者)・鈴木克明 (研究分担者) 平成 24-26 年度 学術振興会科学研究費補助金
基盤研究 (C) 課題番号 : 24501225 「ID で教員の e ラーニング実践と継続を動機づける支援フレームワーク構築の研究」 (研究代表者 中嶋康二@大阪学院大学)
- I-F-4. 松葉龍一(研究代表者)、久保田真一郎(研究分担者)、宮崎誠(研究分担者)、鈴木雄清(研究分担者)
平成 25-27 年度 学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C) (研究課題番号:25350289)「大規模クラスにおける作文教育のためのオンライン相互レビューシステム開発と授業設計」 総額:5,070 千円(2013 年度:1,822 千円)
- I-F-5. 根本淳子 (研究代表者) 平成 24-25 年度 学術振興会科学研究費補助金
若手研究(B) (研究課題番号 : 12016963) 「リフレクション活動の深化を目指した「学びのスケッチ」ツールの高度化」 総額 : 3176 千円 (2012 年度 : 1418 千円)
- I-F-6. 都竹茂樹 (主任研究者) 平成 24-26 年度 科研費基盤研究 (C) 「e ラーニング学習管理システム (LMS) によるメタボリック症候群向け保健指導の開発」
- I-F-7. 都竹茂樹 (研究分担者) 平成 25 年-27 年度 厚生労働科研費 「若年就労者に向けた健康日本 21 普及啓発のためのエンターテイメント・エデュケーション トランスメディアプログラムの開発と評価」 (研究代表者 河村洋子@熊本大学)
- I-F-8. 都竹茂樹 (研究分担者) 平成 24-26 年度 国土技術政策総合研究所 「都市圏交通調査・分析・予測手法の先導的プラットフォームの構築と実装」 (研究代表者 円山琢也@熊本大学)
- I-F-9. 戸田真志(研究代表者)
平成 25-27 年度 学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C) (研究課題番号:25350341) 「手術記録映像の再利用によるカテーテル手技医育成支援」 総額:4,940 千円(2013 年度:1,690 千円)
- I-F-10. 戸田真志 (研究分担者)
平成 23-25 年度 学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B) 課題番号:23300308
「アンラーニング・ワークショップの分析過程に関する研究」 (研究代表者 荻宿 俊文@青山学院大学)

- I-F-11. 戸田真志 (研究分担者)
平成 25-27 年度 学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)課題番号:25280075
「着るアシスタント: 動作と行動の支援と教示を行うためのセンシングと認識の統合」 (研究代表者 中村裕一@京都大学)
- I-F-12. 中野裕司(代表): 基盤研究 (C)「クラウド化とパーソナル化による数式処理サービスの Web 汎用化」, 平成 25 年度: 1,300 千円 (間接経費は除く)
- I-F-13. 中野裕司(代表): 基盤研究 (特別研究員奨励費)「大学の情報サービス麻痺にクラウドとマッシュアップで対応する学習支援システムの開発」, 平成 25 年度: 600 千円 (間接経費は除く), 外国人特別研究員(研究分担者): Muhammad Wannous
- I-F-14. 中野裕司(分担): 基盤研究 (B)「ユニバーサルな e ラーニング環境を構築するための分散型 LMS 構築に関する研究」, 平成 25 年度: 680 千円 (間接経費は除く), 研究代表者: 宇佐川毅 (熊本大学)

I-G.その他 [20]件

- I-G-1. 松葉 龍一(2014.3.10-12), International Scientific Advisory Board, INTED2014 (8th International Technology, Education and Development Conference, Valencia Spain).
- I-G-2. 鈴木克明 (2013.12.26-27; 2014.2.17) 非常勤講師「学習メディア論」(東京工業大学大学院)
- I-G-3. 中野裕司, 久保田真一郎, 松葉龍一, 杉谷賢一, 永井孝幸, 田村規雄, 八木玲子, 西村岳史, 中野淳, 大学優秀論文賞 (ICT 推進協議会 2012 年度年次大会), 「CAS とリバープロキシを基盤とした学外システムの利用者制限とログ管理」, 2013-12-19.
- I-G-4. 鈴木克明 (2013.11.29) 平成 26 年度 NHK 高校通信教育委員会助言者
- I-G-5. Hiroshi Nakano, Programme Committee of the 12th International Conference Informatics'2013 (INFORMATICS 2013), November 5-7, 2013, Spi?ska Nova Ves, Slovakia (2013).
<http://informatics.kpi.fe.i.tuke.sk/?q=node/6>

- I-G-6. Nakano Hiroshi, Programme Committee of the 11th International Conference on Emerging eLearning Technologies and Applications (ICETA2013), October 24-25, 2013, Stary Smokovec, The High Tatras, Slovakia (2013).
http://www.iceta.sk/_archiv/2013/main.php?pgID=vybor&lang=en&subID=2
- I-G-7. Katsuaki Suzuki, Program Committee Member, CSEDU2013, 5th International Conference on Computer Supported Education, 6-8 May, 2013 Aachen, Germany.
- I-G-8. Hiroshi Nakano, Programme Committee of the 12th ePortfolio and Identity Conference (ePIC 2013), July 9-11, 2013, London (2013). (Mail only)
- I-G-9. 鈴木克明(2013.4-2015.3) 客員研究員 (広島大学高等教育研究開発センター)
- I-G-10. 鈴木克明 (2013) 非常勤講師 (青森県立保健大学大学院)
- I-G-11. 鈴木克明 (2013) 「インストラクショナルデザインとしての授業設計」『看護教育』54 巻 4 号 (特集: 授業設計再入門) ,259-264
- I-G-12. 中野裕司, 平成 25 年度国家課題対応型研究開発推進事業(文部科学省委託事業)『アカデミッククラウド環境構築に係るシステム研究』提案「コミュニティで紡ぐ次世代大学 ICT 環境としてのアカデミッククラウド」委員(教育分野)
- I-G-13. 中野裕司, 大学 ICT 推進協議会, アカデミッククラウドに係る委託調査タスクフォース (教育分野), 2013-04-16~2014-03-31
- I-G-14. 中野裕司, 大学 ICT 推進協議会, オープンソース技術部会 運営委員 (2011-)
<http://axies.jp/>
- I-G-15. 中野裕司, 大学 ICT 推進協議会 2013 年度年次大会 企画セッションオーガナイザ, 高等教育機関向けオープンソースソフトウェア開発プロジェクト KualI (F2H), 2013-12-20.
- I-G-16. 中野裕司, 情報処理学会 教育トランザクション準備委員 (2013)
- I-G-17. 中野裕司, サイエнтиフィック・システム研究会 (SS 研) e ポートフォリオ研究 WG 推進委員(まとめ役), 2013-
<http://www.sskn.gr.jp/MAINSITE/activity/workinggroup/epf/closed/member.html>
- I-G-18. 中野裕司, 特定非営利活動法人 くまもとインターネット市民塾 副理事長

- I-G-19. Masashi Toda, Program Committee Member of The 23rd International Conference on Artificial Reality and Telexistence (ICAT2014), December 11-13, 2013, Tokyo, Japan.
- I-G-20. Masashi Toda, Scientific Committee Member of 20th Korea-Japan Joint Workshop on Frontiers of Computer Vision (FCV2014), Feb. 4-6, 2014, Okinawa, Japan.

II.アソシエート（本専攻の学生および同窓生）による業績

II-A.学術論文 [7]件

- II-A-1. 増山 純二・久保田 真一郎・北村士朗・鈴木克明 (2014) BLS の長期定着の検証—病院内急変対応のシステム化に向けて—. 教育システム情報会誌, 31(1), 105-109.
- II-A-2. 西本彰文・田口浩継(2014.2)「教員養成系実習・演習科目における反転授業のデザインおよび実施」, 日本産業技術教育学会九州支部論文集, 査読有, 第 21 巻, pp.111-116, <http://hdl.handle.net/2298/29700>
- II-A-3. 石井 嘉明・久保田 真一郎・北村士朗・喜多敏博・中野裕司(2014.1)柔軟な協調学習環境を実現する学習管理システム用モジュールの開発と実践. 情報処理学会論文誌 55(1), 105-114
- II-A-4. 仲道雅輝・秋山英治・清水史 (2014) インストラクショナル・デザイン (ID/教育設計) を活用した対面授業からブレンディッドラーニングへの再設計支援. 大学教育実践ジャーナル第 12 号, 47-54
- II-A-5. Oikawa, Y., Matsuba, R., Kita, T., Suzuki, K., & Nakano, H. (2013). Development of a Similar-question Generator to Support Peer Teaching. International Journal for Educational Media and Technology, 7(1), 38-49
- II-A-6. Nakajima, K., Nakano, H., Watanabe, A., & Suzuki, K. (2013). Proposal for the Volition Subcategories of the ARCS-V Model. International Journal for Educational Media and Technology, 7(1), 59-69
- II-A-7. 加藤 泰久・喜多 俊博・中野裕司・鈴木克明 (2013) フロー理論に基づく学習教材・学習環境再設計支援のためのチェックリストの評価と改善. 教育システム情報会誌, 30(3), 200-211.

II-B.博士論文 [1]件

■2013 年度提出博士論文

- II-B-1. 中嶋康二 (2014) 学習意欲を高める ARCS モデルの拡張と実践利用に関する研究.2013 年度博士論文

II-C.国際会議 [6]件

- II-C-1. AOKI,T., ASADA,Y.,TAKANORI,H., TOMIZAWA.Y.,(2014.1.28). Effectiveness of American style CPR trainingfor Japanese Medical Students. A paper presented at IMSH2014(International Meeting for Simulation in Healthcare),California ,USA
- II-C-2. Suzuki. Y., Matsuba, R., Suzuki, K. & Kita, T. (2014). Development of ARCS Motivation Model Based System for Instructional Improvement. In M. Searson & M. Ochoa (Eds.), Proceedings of Society for Information Technology & Teacher Education International Conference 2014 (pp.1669-1671). Chesapeake, VA: AACE.
- II-C-3. Oikawa, Y., Nakajima, K., Matsuba, Y., Suzuki, K., Kita, T., & Nakano, H. (2013.8.9). Designing a Blended Undergraduate General Chemistry Course Using the ARCS Model. A paper presented at ICoME 2013 (International Conference on Media in Education), Nihon Fukushi University, Japan.
- II-C-4. Nakajima, K., Watanabe, A., Nakano, H., & Suzuki, K. (2013.8.10). Verification of the Practical Uses of the ARCS-V Model. A paper presented at ICoME 2013 (International Conference on Media in Education), Nihon Fukushi University, Japan.
- II-C-5. Kuwahara, C., Kita, T., Goda, Y., & Suzuki, K. (2013.8.10). A Case of an Asynchronous E-learning Course in Undergraduate Career Education toward Enhancement of Self-efficacy. A paper presented at ICoME 2013 (International Conference on Media in Education), Nihon Fukushi University, Japan.
- II-C-6. Noda, K., Goda, Y., Watanabe, A., & Suzuki, K. (2013.8.10). How to Motivate Student Learning Support Staff to Work in Creative and Proactive Ways. A paper presented at ICoME 2013 (International Conference on Media in Education), Nihon Fukushi University, Japan.

II-D.国内学会 [61]件

- 教育システム情報学会 2013年度特集論文研究会

II-D-1. 高橋 暁子・吉里 孝子・本 尚美・鈴木克明 (2014.3.15) 問題解決型学習のための多段階難易度練習問題の枠組みの提案—新人看護師研修のブレンディング型 e ラーニングを事例として—教育システム情報学会 2013 年度特集研究会 (名古屋学院大学) 研究報告 28 (7) , 81-86

■教育システム情報学会 2013 年度第 6 回研究会

II-D-2. 三井 一希・戸田真志・松葉 龍一・鈴木克明(2014.3.15)授業進度に合わせて ICT 活用に関する情報を配信するシステムの提案.教育システム情報学会 2013 年度第 6 回研究会 (名古屋学院大学) 研究報告 28 (6) , 215-218

■第 6 回日本医療教授システム学会総会

II-D-3. 芳賀 了・藤森 伸江 (2014.3.7) 評価者としてシミュレーションに参加することが学習効果と満足度に与える影響. 一般演題 5-2 (教材開発), 第 6 回日本医療教授システム学会総会タイム 2 4、東京) 抄録集, 44.

II-D-4. 廣江 貴則・浅田 義和・毛利 泰士・佐藤 慎平・青木 太郎 (2014.3.7) 伝わるグラフ・伝えるグラフ: 医療関係者のための効果的な図表利用法に関する教育プログラムの開発. 一般演題 5-3 (教材開発), 第 6 回日本医療教授システム学会総会 (タイム 2 4、東京抄録集), 45.

II-D-5. 佐伯 街子・柴田喜幸・柴 幸夫・三好 雅之・浅田 義和・浅香 えみ子・池上 敬一 (2014.3.7) JSISH プロジェクト:「新人看護師あずさの一日」の提案. 一般演題 5-4 (教材開発), 第 6 回日本医療教授システム学会総会 (タイム 2 4、東京)抄録集, 45.

II-D-6. 青木 太郎 (2014.3.7) 除細動器シミュレータがシミュレーションコース参加者に及ぼす影響の調査. 一般演題 6-1 (シミュレーション), 第 6 回日本医療教授システム学会総会 (タイム 2 4、東京) 抄録集, 46.

II-D-7. 山田 紀照・原尻 太郎・七海 綾美・土居 新宗・小田 尚子・井上 千恵・高橋 雅雄・大石 英治 (2014.3.7) 看護師中途採用者への医療機器研修について ~反転学習・CRI 技法を応用して~. 一般演題 9-6 (看護教育 2), 第 6 回日本医療教授システム学会総会抄録集, 55.

II-D-8. 紙谷 あゆ美・鈴木克明 (2014.3.7) ファシリテータ「次世代の学会大会を考える」, 第 6 回日本医療教授システム学会総会 (タイム 2 4、東京)

- II-D-9. 太石 奨・佐久間 あゆみ・名知 祥・小林 修一 (2014.3.6) ID を用いた ICLS 指導者養成ワークショップの考察 ～事後アンケートをもとにした ICLS 指導歴ごとの回答分析～. 一般演題 1-2 (蘇生教育), 第 6 回日本医療教授システム学会総会 (タイム 2 4、東京) 抄録集, 35.
- II-D-10. 青木 太郎・松本 あつな (2014.3.6) アメリカ心臓協会のシミュレーションコース PALS/PEARS に対して看護師が持つイメージの調査. 一般演題 1-4 (蘇生教育), 第 6 回日本医療教授システム学会総会 (タイム 2 4、東京) 抄録集, 36.
- II-D-11. 佐伯 街子・山内 豊明 (2014.3.6) 看護学生に対する e-ラーニングとシミュレーションの複合型フィジカルアセスメント教材の小集団的形成的評価. 一般演題 2-3 (学生教育), 第 6 回日本医療教授システム学会総会 (タイム 2 4、東京) 抄録集, 38.
- II-D-12. 高山 詩穂・佐伯 街子・浅田 義和・廣江 貴則・芳賀 了・三好 雅之・米島 博司・奥 典宏・清水 将統・太石 奨・佐久間 あゆみ・奥村 光・及川 沙耶佳 (2014.3.6) 次世代医療研究会 (SMENG: The Society of Medical Education for the Next Generation)の活動報告. 一般演題 4-3 (学習環境), 第 6 回日本医療教授システム学会総会 (タイム 2 4、東京) 抄録集, 43.
- II-D-13. 杉木 大輔・金子 浩明・鈴木 達彦・五明 佐也香・上笹貫俊郎・鈴木 光洋・岩下 寛子・池上 敬一・北村 士郎・喜多 俊博・鈴木克明 (2014.3.6) 救命救急センターにおけるグループウェアを用いたチーム医療実践. 一般演題 4-4 (学習環境), 第 6 回日本医療教授システム学会総会 (タイム 2 4、東京) 抄録集, 43.
- 日本教育工学会研究報告集 (JSET14-1)
- II-D-14. 野田啓子, 渡辺雄貴, 美馬のゆり, 鈴木克明 (2014.3.1) ピアチュータリングによる学習支援システムの構築に向けてーハワイ大学マノア校の学習支援組織調査を例にー, 日本教育工学会研究報告集 (JSET14-1), 289-294
- II-D-15. 渡辺雄貴, 野田啓子, 鈴木克明, 美馬のゆり (2014.3.1) ピアチュータリングによる学習支援システムの構築に向けてーブリガム・ヤング大学ハワイ校の学習支援組織調査を例にー, 日本教育工学会研究報告集 (JSET14-1), 295-298
- II-D-16. 竹岡篤永・根本淳子・高橋暁子・柴田喜幸・鈴木克明 (2014.3.1) ストーリー中心型カリキュラム「オリジナル SCC 企画書」提出課題の分析に基づく作成支援ポイントの整理. 日本教育工学会研究報告集 (JSET14-1), 123-128

II-D-17. 高橋暁子・吉田護・喜多敏博・山田文彦 (2014.3.1) Local Knowledge を活かした
コンピテンシー開発のための PDCA モデルの提案ー減災型地域社会リーダーの
コンピテンシー開発を事例にー. 日本教育工学会研究報告集 (JSET14-1), 139-142

■教育システム情報学会 2013 年度第 5 回研究会

II-D-18. 谷塚 光典・東原 義訓・鈴木克明・喜多敏博・渡邊あや (2014.1.11) 教職実践演
習に対応した教職 e ポートフォリオが有する機能の比較検討. 教育システム情報
学会 2013 年度第 5 回研究会 (高知工科大学) 研究報告 28 (5) , 75-80

■日本教育工学会研究報告集 (JSET13-5)

II-D-19. 谷塚 光典・東原 義訓・鈴木克明・喜多敏博・渡邊あや(2013.12.14)教職 e ポー
トフォリオを用いた教育実習生による相互評価の分析の試み.日本教育工学会研究
報告集(JSET13-5), 89-92

■日本教育メディア学会 第 20 回年次大会

II-D-20. 高橋暁子・井ノ上憲司・市川尚・根本淳子・鈴木克明 (2013.10.12-13) インスト
ラクショナルデザインの初学者を対象とした Job-Aid ツールの開発. 日本教育メ
ディア学会第 20 回年次大会 (和歌山大学) 発表論文集, 19-20

II-D-21. 谷塚 光典・東原 義訓・鈴木克明・喜多敏博・渡邊あや (2013.10.12-13) 教職 e
ポートフォリオを用いた教員養成初期段階の学生による相互評価の分析の試み.日
本教育メディア学会第 20 回年次大会 (和歌山大学) 発表論文集, 29-30

■日本語教育学会 2013 年度秋季大会

II-D-22. 甲斐晶子, 今井 新悟, 李 在鎬 (2013.10.12) Japanese Learner's Dictionaryー
日本語学習者のためのマルチメディアウェブ辞書ー.日本語教育学会 2013 年度秋
季大会予稿集,413-414

■日本教育工学会 第 29 回全国大会

II-D-23. 野田 啓子・渡邊あや・合田美子・鈴木克明 (2013.9.23) 学生の主体的力量の効果
的 な形成に寄与する大学職員の関わり方に関する研究. 日本教育工学会第 29 回
全国大会 (秋田大学) 発表論文集, 987-989

II-D-24. 桑原 千幸・喜多敏博・合田美子・根本淳子・鈴木克明 (2013.9.23) 初年次キャリ
ア 教育科目の受講と進路選択自己効力の変容. 日本教育工学会第 29 回全国大会
(秋田大学) 発表論文集, 977-978

II-D-25. 天野 慧・江川良裕・中野裕司・鈴木克明・合田美子 (2013.9.23) 前提知識の習得
支 援を目的とした英語番組教材の分析方法に関する調査. 日本教育工学会第 29
回全国大会 (秋田大学) 発表論文集, 877-878

- II-D-26. 三井 一希・久保田 真一郎・渡邊あや・鈴木克明 (2013.9.23) 初等教育における ICT 活 用の促進を目的とした効率的な情報共有システムの設計. 日本教育工学会 第 29 回全国大会 (秋田大学) 発表論文集, 919-920
- II-D-27. 中嶋 康二・中野裕司・渡邊あや・鈴木克明 (2013.9.23) ARCS-V モデルの有用性検証 方法の妥当性の検討. 日本教育工学会第 29 回全国大会 (秋田大学) 発表論文集, 821-822
- II-D-28. 浅田義和・青木太郎 (2013.9.23) 医療系学生によるシミュレーション教育の自主学習サークル. 日本教育工学会第 29 回全国大会 (秋田大学) 発表論文集, 219-222
- II-D-29. 仲道 雅輝・鈴木克明 (2013.9.22) 授業設計および教材作成支援による大学での e-learning 普及推進の取り組み. 日本教育工学会第 29 回全国大会 (秋田大学) 発表論文集, 805-806
- II-D-30. 石井嘉明・佐藤祥史・貝原有香・千葉佑介 (2013.9.22) エッジー東化による学習者間ネットワーク可視化機能の開発. 日本教育工学会第 29 回全国大会 (秋田大学) 発表論文集, 685-686
- II-D-31. 高橋暁子・竹岡篤永・根本淳子・柴田喜幸・鈴木克明 (2013.9.21) ストーリー中心型カリキュラムのための e ラーニング環境の改訂に関する形成的評価. 日本教育工学会第 29 回全国大会 (秋田大学) 発表論文集, 373-374
- II-D-32. 竹岡篤永・根本淳子・高橋暁子・柴田喜幸・鈴木克明 (2013.9.21) ストーリー中心型カリキュラム「オリジナル SCC 設計書」の分析と 設計書作成支援チェックリストの試作. 日本教育工学会第 29 回全国大会 (秋田大学) 発表論文集, 377-378
- II-D-33. 須曾野 仁志・鈴木克明・根本淳子・合田美子 (2013.9.21) 大学生によるデジタルストーリーテリングの内容・指導法と学習効果. 日本教育工学会第 29 回全国大会 (秋田大学) 発表論文集, 311-312
- II-D-34. 及川 義道・松葉 龍一・喜多敏博・鈴木克明・中野裕司 (2013.9.21) XyMTeX による 類題生成機能の拡張. 日本教育工学会第 29 回全国大会 (秋田大学) 発表論文集, 475-476
- II-D-35. 野木森三和子・米山あかね・横山郁 (2013.9.21) フルオンライン大学の授業における学生相互交流の在り方と意義. 日本教育工学会第 29 回全国大会 (秋田大学) 発表論文集, 301-302

II-D-36. 米山あかね・野木森三和子 (2013.9.21) カリキュラムマップを用いた目標管理シートの運用実績報告.日本教育工学会第 29 回全国大会 (秋田大学) 発表論文集,303-304

II-D-37. 千葉佑介・貝原有香・佐藤祥史・石井嘉明 (2013.9.21) 教育目標からみた Moodle 昨日の対応状況整理に関する検討..日本教育工学会第 29 回全国大会 (秋田大学) 発表論文集,375-376

■教育システム情報学会 2013 年度第 3 回研究会

II-D-38. 天野慧・江川良裕・中野裕司・鈴木克明・合田美子 (2013.9.14) 系列パターンに着目した英語番組教材の前提知識についての調査.教育システム情報学会研究報告 28 (3)

II-D-39. 甲斐晶子・根本淳子・松葉龍一・鈴木克明 (2013.9.14) 関心に合ったコンテキストで文法を意識化する第二言語 e ラーニングモデルの開発と評価 方法の検討.教育システム情報学会研究報告 28 (3)

■大学行政管理学会第 17 回定期総会・研究集会

II-D-40. 米澤慎二・仲道雅輝・清水栄子 (2013.9.8) 教職員能力開発拠点の取組 - SD 講師・SD コーディネーター (SDC) の養成 (事例報告) -.大学行政管理学会第 17 回定期総会・研究集会 (東京電機大学) 資料集, 49-50

II-D-41. 秦敬治・阿部光伸・大竹奈津子・仲道雅輝・米澤慎二・石原卓也 (2013.9.8) 大学間連携 SD を活用した次世代リーダー養成システム～SPOD - SD の事例から～.大学行政管理学会第 17 回定期総会・研究集会 (東京電機大学) 資料集, 89-90

■教育システム情報学会 第 38 回全国大会

II-D-42. 平岡 斉士・松葉 龍一・梶田 将司・合田美子・鈴木克明・寶馨 (2013.9.4) 所属の異なる大学院生群を対象にした学際的教育プログラムにおける e ポートフォリオ構築計画. 教育システム情報学会第 38 回全国大会(金沢大学)発表論文集, 419-420

II-D-43. 加地正典・塩沢美由紀・宇野令一郎 (2013.9.4) オンライン大学における学習ポータル構築の実施報告.教育システム情報学会第 38 回全国大会(金沢大学)発表論文集,339-340

II-D-44. 廣庭 晴香・大久保 佳奈・川元 律子・森田 晃子・早川 勝夫・根本淳子・戸田真志・鈴木克明 (2013.9.3) 医療施設における学習支援システム基本設計への取り組み-4 職種のキャリア開発プロジェクトから考える-. 教育システム情報学会第 38 回全国大会(金沢大学)発表論文集, 237-238

- II-D-45. 高橋暁子・吉里 孝子・本 尚美・鈴木克明 (2013.9.3) フィジカルアセスメント教育における e ラーニング教材の改訂. 教育システム情報学会第 38 回全国大会(金沢大学)発表論文集, 245-246
- II-D-46. 柴田喜幸・森田晃子・鈴木克明 (2013.9.3) ストーリー型 e ラーニングにおける先行 2 理論の適合度チェックツール (Ver.4) の開発. 教育システム情報学会第 38 回全国大会(金沢大学)発表論文集, 297-298
- II-D-47. 新垣円・宇野令一郎・加地正典 (2013.9.3) オンライン大学における新入生オリエンテーション効率化のためのポータル導入. 教育システム情報学会第 38 回全国大会(金沢大学)発表論文集, 185-186
- II-D-48. 竹岡篤永・高橋暁子・根本淳子・柴田喜幸・鈴木克明 (2013.9.2) ストーリー文脈と自分の現実・体験とを結びつけるアドオンの試行. 教育システム情報学会第 38 回全国大会(金沢大学)発表論文集, 97-98
- II-D-49. 宮原 俊之 (2013.9.2) 高等教育機関における e ラーニングを活用した社会人講座に対する組織支援体制「大学 e ラーニングマネジメント (UeLM) モデル」の有効性の検証. 教育システム情報学会第 38 回全国大会(金沢大学)発表論文集, 43-44
- 日本リメディアル教育学会第 9 回全国大会
- II-D-50. 仲道雅輝・瀧本笑子・平田浩一・藤岡克則・秋山英治・庭崎隆・山崎哲司・田中寿郎 (2013.8.29) プレイメントテスト実施方法に関する一考察. 日本リメディアル教育学会第 9 回全国大会 (広島修道大学) 発表予稿集, 6-7
- 日本教育工学会研究報告集 (JSET13-3)
- II-D-51. 桑原 千幸・喜多敏博・合田美子・鈴木克明(2013)インストラクショナルデザインに基づくキャリア教育授業設計支援ツールの開発. 日本教育工学会研究報告集 (JSET13-3), 1-6
- II-D-52. 上田 勇仁・根本淳子・鈴木克明・合田美子(2013)高等教育機関におけるプロジェクト型学習設計支援ツールの開発と形成的評価の試み. 日本教育工学会研究報告集 (JSET13-3), 7-14
- II-D-53. 高橋暁子・根本淳子・鈴木克明(2013)教材設計基礎科目における『教材企画書チェックリスト』に基づいた受講者相互評価の分析. 日本教育工学会研究報告集 (JSET13-3), 53-60
- 教育システム情報学会 2013 年度第 2 回研究会

II-D-54. 谷塚 光典・東原 義訓・渡邊あや・喜多敏博・鈴木克明 (2013.7.14) 教職 e ポートフォリオを活用した教員養成初期段階の「目指す教師像」の構築. 教育システム情報学会研究報告 28 (2) 61-64

■大学教育学会第 35 回全国大会

II-D-55. 秦敬治・鈴木理絵・泉谷道子・津曲陽子・林真輝・山内一祥・岸岡洋介・仲道雅輝・山崎その (2013.6.2) 学生リーダーシップに関する評価指標策定に関する考察. 大学教育学会第 35 回全国大会 (東北大学) 講演論文集, 282-283

II-D-56. 泉谷道子・山内一祥・阿部光伸・林真輝・鈴木理絵・仲道雅輝・津曲陽子・岸岡洋介・秦敬治 (2013.6.2) 学生リーダーシップ養成における学びのサイクルに関する考察. 大学教育学会第 35 回全国大会 (東北大学) 講演論文集, 284-285

■教育システム情報学会 2013 年度第 1 回研究会

II-D-57. 清水 將統・北村士朗・中野裕司・鈴木克明 (2013.5.18) 看護実践の自律したリフレクションを支援する e ポートフォリオ・プロトタイプの開発. 教育システム情報学会研究報告 28 (1)

II-D-58. 岡崎 太輔・都竹 茂樹・北村士朗・鈴木克明 (2013.5.18) 手術室看護師が独学できる GBS 理論を用いた災害対策教材の開発. 教育システム情報学会研究報告 28(1)

■日本教育工学会研究報告集 (JSET13-2)

II-D-59. 野田 啓子・鈴木克明・渡邊あや・合田美子 (2013.5.18) 学習支援の担い手としての学生スタッフ育成に向けた研修・評価プログラムの基本設計. 日本教育工学会研究報告集 (JSET13-2), 19-22

II-D-60. 谷塚 光典・東原 義訓・渡邊あや・喜多敏博・鈴木克明 (2013.5.18) 教職 e ポートフォリオにおける相互評価機能の実装. 日本教育工学会研究報告集 (JSET13-2), 23-28

II-D-61. 中嶋 康二・中野裕司・渡邊あや・鈴木克明 (2013.5.18) 拡張版 ARCS 動機づけモデルの実践有効性検証ツールの設計と評価. 日本教育工学会研究報告集 (JSET13-2), 147-154

II-E.招待講演[30]件

II-E-1. 仲道雅輝 (2014.1.15) 講師, 「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法」 S P O D プログラム, 愛媛大学

II-E-2. 仲道雅輝 (2014.2.13) 講師, 「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法」創価大学 F D セミナー, 創価大学

- II-E-3. 仲道雅輝 (2014.2.15-16) 講師, 「学生リーダー養成研修」松山大学リーダー研修会, ホテル奥道後 (松山市)
- II-E-4. 仲道雅輝 (2013.5.13) 講演・シンポジウム「大学教育の未来を支えるeラーニングの可能性/愛媛大学のeラーニング推進の取組～教育デザイン室の設置～」国立大学改革強化推進事業第1回シンポジウム, 愛媛大学
- II-E-5. 小林直人・佐藤浩章・山田剛史・仲道雅輝・大竹奈津子 (2013.7.6-7) 講師, 「授業デザインワークショップ」四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD), 文部科学省教職員能力開発拠点事業, 久万高原 (愛媛県)
- II-E-6. 小林直人・佐藤浩章・山田剛史・仲道雅輝・大竹奈津子 (2013.9.2-4) 講師, 「授業デザインワークショップ」四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD), 文部科学省教職員能力開発拠点事業, 愛媛大学
- II-E-7. 秦敬治・仲道雅輝 (2013.6.28) 講師, 「若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座」SPOD講師派遣事業, 香川大学
- II-E-8. 仲道雅輝 (2013.8.21) 講師, 「若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座」四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD), 愛媛大学
- II-E-9. 仲道雅輝・津曲陽子・児玉健志 (2013.8.23) 講師, 「若手・中堅職員のためのコーディネート力養成講座」四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPODフォーラム), 愛媛大学
- II-E-10. 仲道雅輝・津曲陽子・久保秀二 (2013.8.22) 講師, 「後輩ができた若手・中堅職員のための観察力養成講座」四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPODフォーラム), 愛媛大学
- II-E-11. 仲道雅輝・津曲陽子 (2013.8.23) 講師, 「インストラクショナル・デザイン (ID/教育設計) を活用した職員による企画・立案マネジメント」四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPODフォーラム), 愛媛大学
- II-E-12. 仲道雅輝 (2014.1.23) 講師, 「インストラクショナル・デザイン (ID/教育設計) を活用した職員による企画・立案マネジメント」SPOD次世代リーダー養成ゼミナール, 徳島大学
- II-E-13. 大竹奈津子・仲道雅輝・津曲陽子 (2013.8.22) 講師, 「効果的なグループワークの方法」四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPODフォーラム), 愛媛大学

- II-E-14. 仲道雅輝・池住元秀・瀧本笑子 (2013.8.26) 講師, 「アカデミック・プレゼンテーション (パワーポイント編)」 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD)・テニュアトラック研修, 愛媛大学
- II-E-15. 仲道雅輝・池住元秀・瀧本笑子 (2013.8.28) 講師, 「アカデミック・プレゼンテーション (動画教材制作編)」 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD)・テニュアトラック研修, 愛媛大学
- II-E-16. 仲道雅輝・瀧本笑子・増田隆司 (2013.12.10-11) 講師, 「ACCESS (基礎)」 大学人・社会人としての基礎力養成プログラム (共通科目) 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD)・テニュアトラック研修, 愛媛大学
- II-E-17. 仲道雅輝 (2013.8.30) 講師, 「若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座」 SPOD講師派遣事業・聖カタリナ大学SDセミナー, 聖カタリナ大学
- II-E-18. 仲道雅輝・佐々木隆志 (2013.9.20) 講師, 「eラーニング入門～moodle ソフトを使ってきめ細やかな学習支援をしよう～」 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD), 愛媛大学
- II-E-19. 仲道雅輝 (2013.9.17) 講師, 「効果的な eラーニングの活用方法」 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD), 愛媛大学
- II-E-20. 仲道雅輝・丸山智子 (2013.9.26-27) 講師, 「プロジェクト・イノベーション実践」 大学人・社会人としての基礎力養成プログラム (レベルⅡ) 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD), 愛媛大学
- II-E-21. 仲道雅輝 (2013.11.8) 講師, 「学習者の学習意欲を高めるためのインストラクショナル・デザイン (ID) 入門～ARCS動機付けモデルの活用～」 SPOD講師派遣事業・徳島大学FDセミナー,
- II-E-22. 仲道雅輝 (2013.9.6) 講師, 「学習者の学習意欲を高めるためのインストラクショナル・デザイン (ID) 入門～ARCS動機付けモデルの活用～」 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD), 愛媛大学
- II-E-23. 仲道雅輝 (2013.11.7) 講師, 「学習者の学習意欲を高めるためのインストラクショナル・デザイン (ID) 入門～ARCS動機付けモデルの活用～」 愛媛大学理学部FDセミナー,
- II-E-24. 小林直人・清水栄子・大竹奈津子・仲道雅輝 (2013.9.17-18) 講師・メンター, 「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD), 教職員能力開発拠点事業, 愛媛大学

- II-E-25. 川島啓二・井上史子・小林直人・秦敬治・佐藤浩章・山田剛史・仲道雅輝・阿部光伸・清水栄子・大竹奈津子 (2013.10.4-6) 「ファカルティーディベロッパー(F Der)・SDコーディネーター養成研修」文部科学省教職員能力開発拠点事業, コンソーシアム京都
- II-E-26. 青木太郎(2014.2.15)講師,インストラクターコンピテンシー入門 第9回日本医学シミュレーション学会 獨協医科大学
- II-E-27. 青木太郎(2014.2.15)講師,インストラクショナルデザイン入門 第9回日本医学シミュレーション学会 獨協医科大学
- II-E-28. 青木太郎(2013.11.17)講師,PEARS-看護師向け患児急変予防コース 第21回小児集中治療研究会年次大会 国立オリンピック記念青少年総合センター
- II-E-29. 青木太郎(2013.10.18)講師,「動機付け理論の活用」 認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程 昭和大学キャリア開発・研究センター
- II-E-30. 青木太郎(2013.6.13) 講師,「成人教育と教授システム学 ―看護教育への応用―」 国公立大学病院副看護部長研修 千葉大学

II-F.外部資金[1]件

- II-F-1. 西本彰文(研究代表者)平成25年度, JSPS 科学研究費補助金奨励研究 (研究課題番号:25910032) 教員養成系実習科目における反転授業デザイン原則創出に関する研究 総額:500千円, <http://kaken.nii.ac.jp/d/p/25910032.ja.html>

II-G.その他 [17]件

- II-G-1. 加藤泰久(2013)情報システム教育学会 評議員 大会企画委員会委員 研究会委員会委員 産官学連携・人材開発戦略委員会副委員長
- II-G-2. Yasuhisa Kato, ICCE2014 Sponsorship Co-Chair of Local Organizing Committee
- II-G-3. 高橋暁子(2013)日本教育工学会FDセミナー委員
- II-G-4. 秋山英治・仲道雅輝(2014.3.6) eラーニングと日本語の教育. 大学eラーニング協議会・大学間連携共同教育推進事業合同フォーラム(佐賀大学)予稿集, 15-18
- II-G-5. 青木太郎(2013.4.6)IMS H2013 視察報告.熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻同窓会研究報告 Vol.2,3-4

- II-G-6. 麻生 和彦(2013.4.6)数学講義ビデオの活用についての考察 -市販アプリ「板書 Producer」を利用して-.熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻同窓会研究報告 Vol.2,5-6
- II-G-7. 大石 隼(2013.4.6)初心者のためのオンライン ID 学習会の試行と中間報告.熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻同窓会研究報告 Vol.2,7-8
- II-G-8. 甲斐 晶子(2013.4.6)「Japanese Learner' s Dictionary」の開発経過報告.熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻同窓会研究報告 Vol.2,9-10
- II-G-9. 加地 正典、宇野 令一郎(2013.4.6)顧客開発とプロダクト開発を並行させるビジネスプランニングコースの設計.熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻同窓会研究報告 Vol.2,11-12
- II-G-10. 斎藤 和郎(2013.4.6)シラバスの様式を見直したら何が変わったのか?.熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻同窓会研究報告 Vol.2,13-16
- II-G-11. 高橋 暁子(2013.4.6)WBS によるストーリー中心型カリキュラムの学習環境の改善プロセスの分析.熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻同窓会研究報告 Vol.2,17-18
- II-G-12. 竹岡 篤永(2013.4.6)GSIS での学習は日常業務のやりかたをどう変えたか.熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻同窓会研究報告 Vol.2,19-20
- II-G-13. 中畠 康二(2013.4.6)学習意欲の問題を解決するための教育向けツールの設計.熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻同窓会研究報告 Vol.2,21-22
- II-G-14. 仲道雅輝(2013.4.6)国立大学法人における e-learning 推進の取り組み～私立大学での実践成果から～.熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻同窓会研究報告誌 Vol.2,23-24
- II-G-15. 西本 彰文(2013.4.6)現職技術科教員を対象としたビールゲームの実施.熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻同窓会研究報告 Vol.2,25-26
- II-G-16. 野田 啓子(2013.4.6)入学前留学プログラムにおける e ポートフォリオの活用と効果.熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻同窓会研究報告 Vol.2,27-28
- II-G-17. 今井新悟・李在鎬・甲斐晶子・吉田麻子・信岡麻理・古川雅子・堀聖司・朴眞煥 (2013) <報告> 日本語・日本事情遠隔教育拠点報告 2013. 筑波大学留学生センター日本語教育論集(29) (印刷中)